

令和2年度 自己評価書

学校名	和歌山市立新南小学校
校長氏名	嶋田弘人
作成日	令和3年2月22日

1 教育目標

豊かな心を持ち、主体的に生きる子どもを育成する

2 本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	<ul style="list-style-type: none"> 県学習到達度調査で正答率が県平均を上回る。 児童アンケート「毎日の勉強がわかる」(児童80%) 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「学校が楽しい」(児童90%) いじめの解消率100% 	<ul style="list-style-type: none"> 児童アンケート「給食の後、歯磨きをしている」(児童90%) 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケート「学校の様子をわかりやすく伝えている」(保護者80%) 児童アンケート「わたしは、気持ちのよいあいさつができる」(児童80%)
重点目標【P】	<ul style="list-style-type: none"> ◎基礎基本の確実な定着 ◎子供主体の授業の推進 ○読書活動の推進 ○家庭学習の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ◎道徳教育・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止・早期発見 ○互いのよさを認め合う仲間作りと集団活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎体力向上の取組の推進 ◎基本的生活習慣の確立 ○外遊びや運動に親しむ機会の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ◎家庭・地域との連携推進 ◎情報の積極的な発信 ○地域資源の積極的活用の推進
取組の状況【D】	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本が確実に身に付くよう、指導方法の工夫改善と、どの子にもわかる授業の実践に努めた。 授業では学習の「めあて」を提示し、学習内容に応じて話し合う場面を設け、授業の終末には学習を振り返る時間を確保するよう努めた。 子供が主体的に学び伝え合う学習を目指した授業づくりを目標に、国語の研究授業を担当全員が実践した。 「星の一声読書」や「読み聞かせ」を通して読書意欲の向上に努め、学校図書館の開放など読書環境の整備に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳の授業の工夫改善に努めながら、自己を見つめ自分のよさを伸ばし、他を思いやる心を育む指導に力を入れた。 児童が互いのよさを認め、どの子も安心できる学級づくりに取り組み、仲間意識や人権意識を高めた。 子供同士が関わり合う行事や集団活動を通して主体性と協働性を育てた。 いじめアンケートを学期に3回実施し、いじめの未然防止・早期対応に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 制限のある中、工夫改善することで体育の授業の充実を努めた。 「なわとびカード」を活用することで、より難しい技に挑戦するなど、運動への意欲につながった。 「早寝・早起き・朝ごはん」「食後の歯磨き」については、十分に推奨することができなかった。 スポーツレクリエーション大会が近づくと休憩時間にリレーや徒競走の練習に励む姿が見られた。遊具等については月ごとに安全点検を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校通信、学年通信、学級通信、HP等で学校の様子について発信することができた。 児童が地域に向き、地域の学習を行った。 今年度は、学校の行事や地域の行事で地域の方と触れ合う機会を持つことはできなかった。
取組の成果と課題【C】(評価)	<ul style="list-style-type: none"> 「毎日の勉強がわかるか」という児童アンケートでは、肯定的回答は88.0%あり、目標は達成できた。 県学習到達度調査の結果、4年生国語、算数、5年生国語、理科は県平均正答率を上回った。5年生算数は県平均正答率より0.3%下回った。従って、目標は概ね達成できたと考えられる。しかし、平均無答率は各学年どの教科についても県平均よりも下回っている。基礎問題に比べ、活用問題の平均正答率が低いため、活用問題の正答率を高める取り組みが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学校が楽しいと感じる」と回答した児童の割合は94.4%である。互いの良さを認め合え、安心できる学級づくりの取組が反映された結果であると考えられる。 学期に1回実施している「いじめアンケート」も活用しながら、児童間のトラブルはその都度丁寧に対応し、解決してきた。いじめは起こるものという認識のもと、早期に見つけ対応していく取組を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 給食後の歯磨きについて、ブラッシング指導を通して歯の大切さや歯磨きの方法を指導してきたが、給食後の歯磨きを徹底できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の様子を分かりやすく伝えることについて、保護者アンケートの「学校は、学校の教育活動や子どもの様子を保護者に分かりやすく伝えている」の項目の肯定的回答は69.6%と低く課題が残った。 子供たちの挨拶について、児童アンケートの「わたしは、気持ちのよいあいさつができる」の項目の肯定的回答は90.6%であり、子供たちの意識の中では挨拶ができているという認識であると考えられる。自ら進んで相手に伝わる挨拶ができることが課題である。
改善方法【A】(次年度に向けて)	<ul style="list-style-type: none"> 基礎基本の確実な定着を図るとともに、活用力を高めるための指導方法の工夫改善に努める。 子供主体の伝え合う学習を目指した授業づくりに全職員で継続して取り組む。 読書環境を充実させ、児童の読書意欲の一層の向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や人権教育の一層の充実を図り、いじめを許さない心情を養う。 自己肯定感を育み、自分も相手も大切にできる児童の育成をめざす。 いじめが起きた場合、児童双方への指導を迅速に丁寧に行うとともに、保護者との連携を密にして学校の取組が十分伝わるように努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 体育の授業では、楽しみながら運動に親しむとともに、運動量を十分保障する場の工夫や改善を進め、バランスのとれた運動能力の向上に努める。 歯磨きの大切さを指導し、給食後の歯磨きの徹底に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校・学年・学級通信・HP等を通して、学校の様子を積極的に発信するとともに、学級懇談会等の機会を活用し、子供達の様子が保護者により一層伝わるように努める。 児童が地域に愛着がもてるよう、地域との交流を継続する。 自ら進んで相手に伝わる挨拶ができるように指導する。

3 その他の課題

- 新南小学校のきまり(遊んで良い所、いけない所、廊下の歩き方)の指導
- 避難訓練(不審者、地震・津波、火事)の改善